

For pleasure or for treasure?

本単元で育成する資質・能力

コミュニケーションを行う力
多面的・総合的に考える力

- 1 単元 「 Lesson3 The Ogasawara Islands 」
- 2 学年・学級 第2学年3組39名 (男子20名 女子19名 計39名)
- 3 単元の目標と単元設定の理由

単元の目標

- 環境問題に関する意見文を読み、その要点をとらえることができる。
- 環境問題に関する自分の意見を、理由や根拠を明らかにしながら書くことができる。

単元観

中学校学習指導要領外国語（英語）では、(2)読むことにおいて、「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点をとらえることができるようにする。」とあり、また(5)書くことにおいて、「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。」とある。「社会的な話題」とは、具体的には自然環境、世界情勢、科学技術、平和などの話題が考えられ、内容(3)言語活動及び言語の働きに関する事項(4)読むこと(エ)においては「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動」とある。

地域で開催された環境イベントに参加したケンとエマが、講演で聴いた世界遺産小笠原諸島に関して書かれたパンフレットの英文を読み、それに対するアンケートを書くという本単元は、「読むこと」から「書くこと」への領域間の統合を図るのに適した題材であるといえる。小笠原諸島の特質として、多くの観光客が訪れる一方で小笠原諸島の固有種や絶滅危惧種が絶滅の危機に瀕しており、それらを守ろうとする島の人々の願いや取り組みが述べられた英文からは、生徒の主體的な思考・判断を自然と促し、自らの感想や意見を述べやすい内容となっている。

本単元で扱う助動詞willやbe going toおよび、接続詞thatとともに、既習事項becauseなども含め、読んだり聞いたりしたことについて、自分の考えや意見を、理由や根拠を明らかにしながら書くことに適した題材である。

生徒観

本学級の生徒は明るく前向きに学習に取り組む姿勢を全体として持っている。また、ペアワークやグループワークなども積極的に取り組むことができる。しかし、配慮の必要な生徒が2名おり、全体としての指示がとりにくいため、個別の声かけが必要である。基礎的・基本的な事項については、個人差はあるが、おおむね定着している生徒が多い。

英語科の4技能のうち、事前アンケートにより「読むこと」が好きと答えた生徒は83%であり、「書くこと」が好きだと答えた生徒は68%であった。英語が分かりにくいと答えた生徒について、「いつから英語がわかりにくいと感じ始めたか。」という質問については「1年生の秋ごろ（一般動詞3人称単数現在形）と答えた生徒が最も多く、「英語を学習するとき、何が難しいと感じるか。」という質問については「つづりが覚えられない。」と答えた生徒が最も多かった。単語のつづりや、動詞の変化形について生徒が課題を感じていると考えられる。

辞書の利用や調べ学習を含め、図書館機能を活用した英語学習に対して生徒達は非常に前向きであり、積極的に図書を活用している。しかし情報をまとめたり、それらを英語で発表したりする段階においては、正しい英文を書くことに課題を感じる生徒が半数程度いるのではないかと思われる。

本単元で取り上げられている小笠原諸島については、東京都に属しながら、太平洋の真ん中に位置し、独自の生態系を持ち、多くの固有種・絶滅危惧種が存在している。同時に豊かな自然体験を目的に、多くの観光客が島を訪れるため、小笠原ルールブックと呼ばれるパンフレットが日本語版でも英語版でも作成されている。しかしながら本学級の生徒たちは小笠原諸島がどこの県にあるのかすら知らない状況である。

指導観

上記課題に対して、指導ではまず英文が書かれた背景となる知識を導入するため小笠原諸島に関する情報を、図書館機能を活用しながら提示する。小笠原諸島の独自性や特殊性、希少性についての理解を促したうえで、英文を読解させ、そこに述べられた小笠原の人々の思いについてその要点をつかませる。多くの観光客が島を訪れることが島にもたらすメリットとデメリットを考えたいという理由を、生徒自身の思いや考えを理由を含めて5文以上の英文で書くために、どのような表現を用いるべきかを意識させながら言語指導をしていく。ワードリストやBingoなどの語彙指導を繰り返し取り入れ、理由を表す接続詞because, I think (that)および助動詞will, mustの用法を話型を示しながら指導する。ペア学習やグループ学習、ジグソー学習などを取り入れ、考えを発展させたり、深化させたりする活動を通して「読むこと」から「書くこと」へ自然な流れで活動をつなげていく。小笠原諸島をきっかけとして、小笠原諸島だけでなく、東広島における絶滅危惧種や環境保全にも思いをはせさせることにつなげたい。

4 本単元で身に付けたい資質・能力

- 小笠原諸島について書かれた英文を読むことを通して、人・もの・社会などのつながり・かかわり・広がり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
【多面的・総合的に考える力】
- 他者の気持ちや思いを尊重し、理由や根拠を明確にしながら自分の思いや考えを伝える力
【コミュニケーションを行う力】

5 単元の評価規準

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
読むこと	○辞書を活用して読んでいるもうとしている。	○意味内容にふさわしく音読することができる。	○あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。	○言語の背景にある文化について理解することができる。
書くこと	○読み手が理解しやすいように、書いたり、書き直そうとしている。	○自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。		○文構造や語法、文法などに関する知識を身につけることができる。

6 単元の指導計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8 (本時)	9
単元	For pleasure or for treasure?								
資質・能力	○小笠原諸島について書かれた英文を読むことを通して、人・もの・社会などのつながり・かかわり・広がり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力 【多面的・総合的に考える力】 ○理由や根拠を明確にしながら、他者の気持ちや思いを尊重し、自分の思いや考えを伝える。 【コミュニケーションを行う力】								
学習過程	学校の掲示板上に貼られたアースフェスティバルのポスターの英文を読む。	未来を表す助動詞 will の用法を理解し、使い方を覚える。	ポールとクミの会話を読む。	未来形 be going to の用法を理解し、使い方を覚える。	ケンとエマの講演についての会話を読む。	接続詞 that の用法を理解し、使い方を覚える。	小笠原諸島についての英文を読み、要点をつかむ。	小笠原諸島についての英文について自分の考えを5文以上で書く。	単元の振り返り
生徒の活動	辞書を使いながら会話を読む	助動詞 will の使い方を覚える	辞書を使いながら会話を読む	be going to の使い方を覚える	辞書を使いながら会話を読む	接続詞 that の使い方を覚える	辞書を使いながら説明文を読む	自分の考えを5文以上で書く。	
関心・態度	辞書を使って英文を読もうとしている。	辞書を使って英文を読もうとしている。			辞書を使って英文を読もうとしている。		既習内容を活用したり、辞書を使って英文を読もうとしている。		
表現								既習内容を活用したり、辞書を使って自分の考えを書こうとしている。	
理解			ポールとクミの会話について理解できる。		ケンとエマの会話について理解できる。		小笠原諸島と島の人々の思いについて理解できる。		
知識・理解		助動詞 will が正しく使える。		be going to の文が正しく使える。		接続詞 that の文が正しく使える。			

ト 主体的な学びを創造する ための指導のポイント			○取り組んでいる課程をスモールステップで評価し、意欲を継続させる。				○ペアやグループによる話し合い活動等で、言語化させ合い、理解を深めさせる。	○自己評価・相互評価など課題と整理させる。	
--------------------------------	--	--	-----------------------------------	--	--	--	---------------------------------------	-----------------------	--

7 本時の学習(8時間目)

(1) 本時の目標

小笠原諸島が抱える問題について自分の考えを5文以上で書くことができる。

(2) 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意点(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て)	評価規準 (評価方法)
導入	1 あいさつ Warm up Bingo 2 本時のめあてを確認する	小笠原諸島の問題について、5文以上の英文でCody先生に説明しよう！	
展開	3 小笠原諸島についてかかれた英文を聞き、内容を振り返る 4 英文を書くのに必要な構文を確認する。 5 個人で感想を書く。 6 4人グループを作り、感想を交流しあう。 7 再度、自分の書いた感想を推敲する。	◇図書室を利用し、司書教諭と連携しながら資料を提示する。 ◇自分の考えを書くのに必要な英語の構文は何かを考えさせる。 I think (that) / I hope (that) We must / I'm going to / I will ◇ペアで情報を交流し、発表させる。 言語活動の充実 ◆英文作成に時間がかかっている生徒に机間指導をする。 ◇書きたい日本語を、書ける日本語に変換させるよう話型を示す。 ◇グループ内で交流することで、思考の深まりや視点の広がりをうながす。 ◆グループ内で交流し、互いに意見を読みあうことで、様々な視点や書き方があることに気づかせる。 ◇自分の感想に、交流した内容をふまえてさらによりよい表現や、思考の深まり、視点の広がりを反映させながら英文を再考させる。	・ワークシート
まとめ	8 何名か発表させ、全体で共有する。 9 グループで交流する前と後の文を比較し、振り返りをする。	生徒のまとめ例 ・ I think that Ogasawara rules are important. ・ Because many animals and plants are disappearing. ・ We must keep the animals and plants of Ogasawara. ・ I'm going to read books about endangered animals. ・ I hope that human and nature can live together.	

8 本時の板書計画

For pleasure or for Treasure?

Today's Goal 小笠原諸島の問題について5文以上の英文で Cody 先生に説明しよう！

< Useful Expressions >

- I think that ㊦+㊧～.=㊦は㊧する/であると思う。
- I hope that ㊦+㊧～.=㊦は㊧だと望む。
- ㊦+will+㊧～.=㊦は㊧するだろう。
- ㊦+can+㊧～.=㊦は㊧することができる。
- ㊦+must+㊧～.=㊦は㊧しなければならない。
- ㊦ is/am/ are/going +to+㊧～.=㊦は～するつもりだ。